

## 第25回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ④

### 「5日間の思い出」

尾崎 真理子

北海道札幌西高等学校 1年



私は K-POP を通して韓国に興味を持つようになりました。そのことを前に話した英語の先生が日韓高校生交流キャンプに参加してみないかと言ってくださり、なにそれおもしろそう！と思い参加を申し込みました。そのときちょうど学校で小テストが続いており、泣きそうになりながら徹夜で書類を書き上げたので合格の電話が入ったと母から連絡がきたときはとても嬉しかったです。ダメ元で提出したので本当にびっくりしました。

1 日目、聞きなれない蝉の声を耳に前泊したホテルから世羅別館へ向かいました。会場に着き日本の高校生と軽く自己紹介したり会話したりして韓国の高校生を待っているとき、自分はすごいところに来ているなあと実感しました。

いよいよ顔合わせのとき、緊張しました。練習してきた韓国語の自己紹介は伝わったのかはわからないけれど、ちゃんと言えたと思います。でも言葉が通じないというこ

ともあり、雰囲気はぎこちなく、打ち解け合うことができるか不安でした。ですが、夜に部屋でお互いの国のお菓子を食べ、距離を縮めることができました。

2 日目、宮島見学がなくなりショックでした…でも、以前から見てみたいと思っていた原爆ドームに訪れることができよかったです。資料館を見学して、話を聞いて、ドームを見て、改めて戦争の脅威を感じました。

そして、広島焼きを食べ、経済現場を体験しに呉市の牡蠣養殖場を訪ねました。札幌と比べ物にならないくらい暑い広島でしたが、船に乗っていると潮風がとても気持ちよかったです。牡蠣割り体験はずっとやっていたくらい楽しかったのですが、漁師の方は1日に何千個も割ると聞き、びっくりしました。

また、この日の夜はゴールデンベルがありました。私のペアは運良く毎回復活したけれど全くダメでした。ですが、チームメ

イトのあいちゃんのペアとヒョンチョルのペアが最後の3チームに残り、見事あいちゃんのペアが優勝するなど、チームきのこの活躍がすごかったです！

3日目、他のチームは昨日から事業案を考え始めていると聞き、少し焦りながら話し合いが始まりました。初めはなかなかいい意見が出ず苦戦しました。チームメイトはメンターのミョンジンさんも含めどんどんアイデアを出していて、すごいなと思うと同時に自分の非力さを痛感しました。

意見がまとまると、疲れている中、みんなまで必死に作業しました。このとき、2日前に会ったとは思えないほどのチームワークを発揮していたと思います。この日、寝れたのは4時でした。

4日目、寝不足で倒れそうな中、事業発表の日を迎えました。チームきのこの発表は5番目で、緊張でそわそわしながら待ちました。発表の途中、ところどころ審査員の方が笑って下さっていて安心しました。最高の発表ができたと思います。

そして結果発表のとき。なんと最優秀賞を頂くことができました。チームの頑張りが認められ、本当に嬉しかったです。

5日目、朝ごはんを食べてすぐお別れでした。私は韓国人メンバーと一緒にリムジンバスで空港まで行ったのですが、あっという間だったなとしみじみ感じました。たった5日間のキャンプでしたが、お別れはやっぱり寂しかったです。

初対面の高校生と一緒に、しかも言葉もうまく通じない、という中での事業計画は想像以上に難しいものでした。今までの私だったらこのキャンプに参加しなかったと思います。でも、韓国に興味があるということで参加しました。日韓の間には様々な問題がありますが、私のような人がもっと増えればいいなと思います。そして、このキャンプがその一歩となればいいと思います。

今回、貴重な経験ができたことを誇らしく思っています。参加できて本当に良かったです。チームきのこのみなさん、メンターのミョンジンさん、本当にありがとうございました。植物の成長日記の動画や、おばけの話、4日目の夜のことなど、いろいろありましたが、みなさんと過ごした時間をずっと忘れません。またいつか会いましょう！

## 「A GOOD FRIEND IS LIKE A FOUR-LEAF CLOVER: HARD TO FIND AND LUCKY TO HAVE」



李 瑞然 (イ・ソヨン)  
恩光女子高等学校 1年

私は7月29日から8月2日まで開催された「第25回日韓高校生交流キャンプ」からとてつもなく大きなプレゼントをもらった。かけがえのない大切な時間だった。長いといえば長く、短いといえば短い5日間だったけれど、その間、たくさんの思いと会話と感情のやり取りがあった。

私がこのキャンプに申し込んだきっかけは、単純に姉がうらやましかったからだ。1年前、姉は「第24回日韓高校生交流キャンプ」に参加した。その時は、ただ長い間どこかに出かけるということだけでも、とにかくうらやましいなと思っていたが、キャンプが終わり、1年が過ぎた今でも姉がそのキャンプで出会った友達とSNSでメッセージのやり取りをしている様子を見て、“いったいキャンプで何があって、ここまで長い間連絡を取り合えるほど仲良くなれたのだろう。”と思い、私もこのキャンプに申し込んでみることにした。

普段から人見知りの私は、空港に着いてからも心配でいっぱいだった。空港に着いたのに母から離れたくなく、不安で仕方なかった。その時、幸いなことに同じチームのソヨン姉さんが先に話しかけてくれたの

で、少し安心した。それからは日本の友達に会う前まで、ソヨン姉さんにばかりくっついて歩いた。

ようやく広島「世羅別館」に着き、日本の友達と対面することになったときは、緊張で胸が張り裂けそうになった。小学3年生の時に、日本に来たことはあるけれど、その時は、両親が連れて行ってくれたところで遊んだり食べたりするだけだった。しかし、今回は、違う。私と同じ世代の日本の高校生たちと一緒に5日間を過ごさなきゃならない、意思疎通も自分でなんとかしなきゃならない、お互いのために仲良く過ごさなきゃならなかった。「世羅別館」まで移動するバスの中では、そわそわして落ち着かなかった。私は日本文化には興味が高かったけれど、日本語は話せなかった。ワークブックを見ながら日本語の挨拶を繰り返し練習していた。

日本の友達の第一印象は、みんなかわいくてフレンドリーだった。自己紹介の時間になると、緊張で震えが止まらなかった。自分の番を待ちながら、他のメンバーの自己紹介を聞いていると、みんなとても上手

でびっくりした。いざ自分の番になると、震えが止まらなくなり、バスで覚えてきた挨拶が口から出てこなくなった。ワークブックを見ながら“ワタシノナマエハ、イソヨンデス。アエテウレシイデス。”とやっと言えた。

オリエンテーションが終わり、部屋へ移動した。部屋は、韓国では見れない構造をしていた。入ってすぐに日本の友達と輪を作って座り、話し合いを始めた。自己紹介をもう一度ゆっくりし合ってから、Twiceや防弾少年団など日本の友達から自分の興味のある話題を出してくれて、話をしていくうちに、徐々に打ち解けていった。韓流が世界中で流行っているとは知っていたが、ここまでとは知らなかった。日本の友達から韓流について話を聞くなんて、なんだか不思議な気がした。

その後は夕食の時間だったが、食べ物と並んでいるテーブルを見てびっくりしてしまった。見るだけで作った人の気づかいが感じられ、とてもおいしそうに見えた。実際食べてみると本当においしかった。

夕食が終わり、チーム名を決めるなど本格的なチーム活動が始まった。日本の友達の奇抜なアイデアにはびっくりした。同じ年のフキちゃんがとても積極的に意見を出してくれて本当に助かった。おかげで企画作業はとてもスムーズに進んだ。

部屋に戻って、シャワーの順番を待ちながらアヤノちゃんと韓国ドラマについて話をした。アヤノちゃんも私もソン・ジュン

ギのファンで、「太陽の末裔」というドラマが好きだったので、話が盛り上がり、とても楽しかった。もっと話したかったけれど、初日ということもあって、緊張と疲れで私も知らないうちに眠りに落ちてしまった。

二日目の朝、目が覚めると、隣で日本の友達が私を起こしてくれていた。まだ早い時間だったので眠かったけれど、楽しい日程が待っていると期待しながら、さっさと出かける準備を済ませた。朝食を食べて、もともとは昨日行く予定だった広島平和記念資料館・公園と原爆ドームを訪れた。本などで写真や文字でしか見たことのない内容を現地で直接目にするのと、まったく違う感じがした。また、より詳しい内容について学ぶことができた。

見学の後、昼食にお好み焼きを食べた。本当においしかった。日本に来る前は、幼いころから偏食が多かった私だったので、日本料理はきっと口に合わないだろうなと思っていたが、予想とは裏腹に本当においしかった。

お好み焼きをおいしく食べてから、日本経済現場体験場所に移動した。事業カテゴリーが「モノづくり」だった私たちのチームの訪問場所は、「マツダミュージアム」だった。大きくて立派なところだった。自動車の販売店は何度か行ったことがあるが、車の博物館は初めてだった。また、マツダミュージアムの方より、工場と2階のウィンドウ側以外は写真撮影可能で、車に直接乗ってみてもいいと言われ、より楽しい時

間を過ごせた。事業発表会に使えると思い、写真をたくさん撮った。

会場に戻り、みんなとおやつを食べてから、コンビニに行った。日本に来る前から行きたいと思っていたコンビニにだったので、食べてみたかったお菓子や、おいしそうなものをたくさん買い込んできて、みんなと分けて食べた。夕食が待っていることをすっかり忘れ、思わず暴食してしまった。

夕食後は、ゴールデンベルの時間だった。日韓の参加者2人がペアになってクイズに答えていくプログラムで、本当に楽しかったけれど、クイズの問題はかなり難しかった。ゴールデンベルのおかげで新しい友達もでき、とても嬉しかった。

事業案を決める時間には、予想以上に色々なアイデアが出てきて、絞り込むのが大変だった。その過程において、みんなの意見を聞いて考えることで、私の思考の幅が広がった気がして嬉しかった。私たちは三日目に少しでも余裕をもって作業ができるように必死に話し合い、事業の方向を平和マーケティングに決めた。

三日目は、今までで一番つらかった。チームで一致団結して、様々なアイデアを出し合い、意見を絞っていく時間をもった。平和マーケティングについてそれぞれ異なる見解を持っていたり、またその範囲が広すぎて、意見を絞っていくのが本当に大変だった。後から、一つのアイデアにこだわるよりは、色々なアイデアは適切に入

れ混ぜて一つにしていった方が効率的だということが分かった。

途中、ドン・キホーテにショッピングに行く時間をいただき、あれこれ買い込んできた。ショッピングが良い気分転換になった。そのあとは、徹夜で事業案について話し合い、各自役割を決め、プロジェクトの完成度を上げていった。

四日目、事業発表会が終わり、すがすがしい気持ちになったけれど、次の日は韓国に戻るのだと思うと悲しくなってきた。賞はもらえなかったけれど、無事に事業発表会が終わり、修了式を迎えた。終了証を手にした時、とうとうキャンプがもうすぐ終わるという実感が湧いてきた。

それから、寄せ書きを書く時間になったが、みんなへの感謝の気持ちがすべて書ききれなくて残念だった。私の寄せ書きに書いてある、チームメンバーたちと、メンター先生からのメッセージがとてもありがたく、本当にみんな素敵な人たちで、この人たちと5日間を一緒に過ごせたことは本当に光栄なことだったなと思った。寄せ書きを書いていると、より寂しい気持ちになり、それからは日本の友達にもっと優しくしようと思うようになった。

夕食の後は、Finale Festivalの時間だった。韓服（ハンボク）とゆかたのファッションショーがあった。日本の友達が韓服を、韓国の友達がゆかたを着て入場してきた。みんな不思議なほど、とてもお似合い

だった。私たちのチームからはマリコちゃん選ばれていたが、本当に綺麗だった。ファッションショーの後は、様々なかくし芸や特技を持っている友達が舞台に出て歌ったり、踊ったりする特技披露の時間だった。本当に楽しく、舞台に出た友達も多かったが、みんな一生懸命に披露してくれた。

それから、両国伝統遊びの時間になり、チームメンバーのハヤト君がチェギチャギ（蹴鞠）をみんなと一緒に一生懸命にやっている姿が、見ていてとても微笑ましかった。私もソヨン姉ちゃんと一緒に日本の伝統遊びをあれこれ体験した。

4日目のすべての日程が終わり、部屋に戻ってシャワーを浴びたり、荷造りをしたり、またみんなで集まって遊びながら眠りに落ちた。

来ないでほしかった最終日がとうとう来てしまった。朝食の後、すぐにお別れだと聞き、悲しくてたまらなくなった。そうと知っていたら、昨日の夜は、もっとたくさんみんなと一緒に遊んでいたのに、と後悔した。朝食を食べて、日本の友達からサプライズプレゼントをもらった。ドン・キホーテに行ったときに、日本の友達が私たちには内緒に、そっと買っていたものだった。ソヨン姉さんと私はなにも用意していなかったもので、本当に申し訳なかった。

お別れの時間が近づいてくると、日本の友達の目が真っ赤になっていた。私も悲しかったけれど、最後まで明るい姿を見せるために泣かなかった。お別れは、とても急

だったので慌ただしく、寂しく、悲しかった。日本のみんながバスのところまで見送ってくれた。本当に最後の最後まで、フレンドリーでやさしい友達で、より分かれるのがツラくなって、バスに乗りたくなかった。バスに乗ってからも窓から手を振り合いながら、また連絡しようね、と約束を交わした。手を振り合っているうちに、バスは出発した。

今回の日韓高校生交流キャンプからたくさんのお得た。良い友達もできたし、事業企画を通して知識の幅を広げ、思考を回転させる方法を学んだ。そして、平和に近づくために私たちにできることが本当に多いということにも気づいた。かけがえない大切な思い出を作ってくれたキャンプの担当の方々、スタッフの方々、メンター先生、チームメンバーたち、キャンプの参加者のみんな、本当に感謝したい人が多い。

また、すでに会いたい人も多い。チームのみんなの面倒をみてくれたユジンメンター先生、一緒に遊んでくれたり、日本語のできない私のために通訳をしてくれたソヨン姉さん、日本語の能力者セヨン兄さん、PPTを作ってくれたミンソン兄さん、プレゼンテーションのグラフを作るために一生懸命に考えて構成してくれたソンジュン兄さん、かわいくて心もやさしいマリコちゃん、いたずらっ子で年下だと思っていたが、私と同じ年だったフキちゃん、プログラムに積極的に参加して私とたくさんおしゃべりしてくれたアヤノちゃん、事業案企画の

時に、絶えずアイデアを出してくれたモエカちゃん、最後にいたずらっ子だとばかり思っていたが、実はエリートのはやと君、こんなにやさしくて素晴らしいチーム

メンバーに出会えて本当に光栄だった。素敵な思い出を作らせてくれて、本当にありがとうございました。CRANING FOREVER!!!

### 「人生で最も濃い5日間」



室井 稔

早稲田大学高等学院 3年

5日間。それは学校の月曜日から金曜日までに等しい期間である。いつもはただただ学校に行き、座って授業を聞き、友人と話し、昼を食べてまた授業を受け、帰る。それをひたすら繰り返す。その五日間が始まる前と終わった後で特に何も変化は感じられない。この5日間が自分の人生を大きく左右する、分岐となることはまず考えられない。だから私は始まる前は正直「たった5日間で何も変わるわけがない」と思っていた。

しかし、この7月29日から8月2日までの5日間は違った。こんなに自分が変わった、人生の分岐点となったと感じられる5日間は今までなかった。

たった5日間で言語の違う人たちと仲良くなれるのかと疑問に思っていたが、韓国の生徒たちは日本語が非常にうまく、さらに日本に対する好奇心も旺盛で到着した瞬

間から積極的に話しかけてきてくれてすぐに打ち解けることができた。

日本列島を台風が襲い、飛行機が飛ばず、韓国側の生徒の到着が遅れるというアクシデントに見舞われたが、そのことによるロスは全く感じられなかった。初日は夜12時半頃まで韓国の若者の間で流行っている遊びをし、親睦を深め、よいチームワークを築けたと思う。そして2日目の平和学習・経済現場体験を通じて、みんないいインスピレーションを得て、それを事業案にうまく反映させることができた。

まず2日目の夜から積極的に事業案を出し合った。出し合うのはいいことだが、絞り込むことに苦労した。せっかく仲良くなった仲間たちの意見を消すことに少し抵抗があった。

しかし開会式で、前に参加していた先輩が「いいところだけでなく、悪いところも

知ってほしい。そのためにも積極的に意見をぶつけてほしい。」とおっしゃっていたことを思い出した。だから思い切ってそれぞれのアイデアのメリット・デメリットを出し合い、妥協せずに3日目の朝に事業案が決定した。

3日目は缶詰め状態で、一日中旅館に籠って事業案の具体化及び発表の構成を考えた。CM作成班、演劇班、発表班に分かれ、各個人の特性を生かしながら準備に取り組むことができた。そしてその夜は3時まで発表の練習を行った。みんな、もちろん自分も含めてだが、睡魔と闘いながら準備を進めた。これでも私たちの班は比較的早く寝られた方だった。

そして発表当日、前日のくじ引きの結果トップバッターになることがわかっていた。緊張で全く朝ごはんが喉を通らなかった。いつも笑いが絶えなかった1班のテーブルも疲労と緊張で静まり返っていた。しかしメンターさんが、「別に失敗しても死ぬわけじゃない」という少々独特な励ましをしてくれたおかげで、リラックスして発表に挑むことができた。そしてトップバッターという重圧に耐えながらも、何とかみんな頑張って無事大きな失敗なく終えることができた。

結果は審査員特別賞受賞という非常に光栄なものだった。この瞬間昨夜の努力が報われた嬉しさと同時に、もうそろそろこの楽しい時間が終わりを迎えるという実感がフツフツと湧いてきた。

その夜のパーティー・伝統遊びは非常に楽しかったが、それが楽しければ楽しいほど別れが辛くなる。こんなに時間が止まってほしいと思ったのは初めての経験だった。部屋に戻ってからも遊んだがやはり時間が経つのが辛かった。布団に入ってから4日間の回想をした。

そしてついに朝が来てしまった。

朝ごはんを食べ終わると本格的に別れの時間が来た。周りでは泣いている人が多くいた。バスまで行くとその割合はさらに増え、ついに私たちのチームの学生も次々と泣き始めた。私もつられて泣きそうになったが何とか耐えた。泣いて別れたらその顔が印象に残ってしまいそうだったから。

この五日間で本当に様々なことを得た。お互いに持っていた間違っていたイメージも払拭できたし、社会で必要なスキルと言ったら大げさかもしれないが、それが少し身についた気がしている。そして何よりも、学校と同じように過ごす5日間では絶対に得られないかけがえのない友人が全国、そして韓国にもできた。ミンウ、ヨンジュン、ジウォン、イエニ、朱里、理彩、藍子、洋朋。学業が落ち着いたら必ず会いに行こうと思う。

最後に5日間私たちをまとめ上げてくれたメンターのワンホさん。本当にありがとうございました。楽しい時は一緒に楽しみ、集中すべき時は空気を変える、ワンホさんがいてくれたおかげでチーム1のメリハリ



のある空気が生まれたと思います。感謝し  
てもしきれません。本当にありがとうございました。

そしてこの日韓高校生交流キャンプの開  
催に尽力して下さった多くの皆様、心よ  
り感謝申し上げます。皆様のおかげで人生

の分岐点となる5日間を過ごすことができ  
ました。ここで得られた経験は必ず今後の  
人生に大きく影響すると思います。本当に  
ありがとうございました。

